読者の広場
星野　スエ子さん

今回インタビューさせていただくのは、南区辻にお住まいの星野スエ子さん。埼玉に移り住んで早50年、ご長男の小学校入学を機に千葉から引っ越してきました。

◆学童保育作り

フルタイムでずっと仕事を続けていた星野さんですが、当時は下校後、子供の面倒を見てくれる人も場所もなくて、とても苦労したそうです。埼玉なら当然、学童保育があるだろうと思っていたのに期待外れでした。困った星野さんは自ら市と交渉しながら、自分たちで部屋を借り、保育士を探して学童保育の先駆けとなる子供たちの居場所を作りました。すごい行動力ですね。因みに今もその学童保育は存続しているそうですよ。

◆定年後も大忙し

『これで安心して仕事が出来る！』ということで、定年を迎える60歳まで見事に勤め上げることができました。家事と子育てをしながら、働き続けてきた星野さん。定年後は、のんびり過ごすのかと思いきや、いきがい大学に通ったりボランティア活動をしたり自治会のお手伝いをしたりと相変わらず大忙し。家でじっとしているより、外に出て人と会っている方が性に合うのだそうです。

◆秋田といえば

星野さんは、秋田のご出身。秋田名物は♪八森ハタハタ男鹿で男鹿ブリコ　能代春慶桧山納豆　大館曲げわっぱ♪と色々ありますが、竿灯まつりも有名ですね。見物に行ったことがあるという方もいらっしゃるでしょうか？

長い竹竿にたくさんの提灯を吊り下げた竿燈を「差し手」と呼ばれる腕自慢たちが力強く持ち上げて練り歩く、秋田市夏の風物詩。２７０年もの伝統あるお祭り、「差し手」の迫力ある妙技をいつか間近で体感してみたいものです。

◆はるかとの出会い

星野さんとはるかの出会いは平成25年に遡ります。終活フェアの遺影写真撮影会に来てくださいました。「メンバーズに入会しませんか？」とお誘いすると、その場でご入会くださり、はるかメンバーズさんとしてのお付き合いがスタート。今年から麻雀教室にも通い始め、才能があるのか「はまりそうで怖い」と星野さん。

麻雀ははまる人続出ですからね。「今から習っておけば遠い将来、デイサービスでも楽しめますよ」と冗談を言うと、「なるほど、本当にそうね」と納得されちゃいました。（笑）

エンディングノートを書き始めたそうですが、それより前に『自分史』を完成させたと聞きます。「誰にも見せるつもりはないけれど、これまでの人生を振り返るきかっけになった。」「60歳を過ぎてから友達が沢山できた、自分の好きなように生きてきた人生は幸せだと思うわ。さいたまに住んで良かった。」とおっしゃいます。

◆いつかつどい場で

「最後の晩餐は？」という質問に思い悩んでいましたが「大好物はいちご」だとか。

以前は晩酌を楽しんでいましたが、ご主人のドクターストップを受け一緒にお酒は止めたそうです。夫婦愛ですね。ご主人と二人、元気でいられることが一番の望み。民話や紙芝居のボランティア活動をしながら腹話術も勉強中。いつか、はるかの「つどい場」でもご披露いただきましょう。

読者の広場
ヒンクス・幸江さん

もうお一方、インタビューさせていただきました。アメリカ合衆国コロラド州から、読者の広場初の海外からのお客様!!メンバーズ安達さんの娘さんです。

安達さんには、平成30年陽春号「読者の広場」に登場いただきましたね。「憧れの田舎暮らしを断念し、再びさいたま市民に返り咲いた」安達さんです。

今回、幸江さんの訪日の目的は、お父さんが引っ越した埼玉の新居を訪ねることです。

「お父さんの新居はいかがでしたか？」とお聞きすると「立地も日当たりも良く、住みやすそうで安心しました」とニッコリ。そして何よりも安心なのは「はるかの存在」だとおっしゃいます。

◆まさかの国際結婚

幸江さんは学生時代、留学するために渡米しました。2年間の期限付きだったはずが、まさかの永住へ。運命の男性と出合い、卒業と同時に国際結婚したのでした。両親にとっては、愛娘をお嫁に出すこと自体が寂しいこと。ましてや嫁ぎ先が海の向こうとは、さぞかし嘆かれたことでしょうね。でも、お孫さんが生まれる時には、両親揃って手伝いに来てくれたそうです。その後も、お孫さんの成長を見るのが楽しみで、度々コロラドを訪れたという「とても仲の良い、おしどり夫婦だった」安達夫妻。

◆父が心配で心配で

「だから、母が亡くなった時は、父が後を追うのでは?と本気で心配しました。」突然ひとりになってしまったお父さんを案じコロラドに呼び寄せて３ヶ月。一時帰国しては、またコロラドへという生活が続きました。「日本にひとりで居たら引きこもっちゃうので」は？」と近所付き合いもないお父さんのことが心配で仕方なかったと言います。当の安達さんは、まさか娘がそこまで案じているとは想ってもいなかったようですが…

◆嬉しい報告

ある日幸江さんに、「はるかに通うことになったよ」という嬉しい報告がありました。週に２回ほど国際電話で話をするという仲良し父娘です。はるかのイベントスケジュールを見ては「今日ははるかで皆とお弁当を食べているんだ」とか「今日は麻雀を楽しんでいるんだ」と、元気に出かけるお父さんの姿を想います。はるかに通うようになって「性格も変わり丸くなった」とまで、おっしゃっていただきました。「そう言われてみれば、初めて会った時より断然明るくなりましたね。今では、メンバーズの皆さんに積極的に声を掛けてくれたり、気を遣ってくれたりと、とても大きな存在です。」と申し上げると「遠く離れていても、お父さんには「はるか」との繋がりがあるので本当に安心なんです」とまたニッコリ笑顔の幸江さん。

◆はるかがあって安心

因みに安達さんの緊急連絡先は「はるか」です。「はるか」の存在がご家族にも安心をお届けできるなんて、幸せに思います。お一人暮らしのメンバーズさん、どうぞご活用ください。どんな些細な心配ごとや困りごとも、ご相談いただければ嬉しいです。「はるか」は、メンバーズの皆さまの「生きる」を応援する葬儀社です！頼りにしてくださいね。そして、幸江さんこれからも海の向こうからの応援よろしくお願いします。

御用聞き日記

2月某日　お墓のお掃除

秋に続き、リピートのお客様K様からのご依頼。前回徹底的に除草したので今回は余裕かな？と思いきや植物の成長ってすごい！私と古屋で40分ほどかけて、お掃除完了…５８００円也

お彼岸ということもあり、もう1件お墓のお掃除のご依頼を承りました。

3月某日　買い出しのご依頼

スーパーからトイレットペーパーが突然無くなりました。パニックって怖いですね。そんな中、「買い出しに行くことができない」という方からのご依頼。

開店に合わせて薬局に行き、無事に購入しお届けに…９３０円也

コロナの影響で買い物が真っ先に困難になるのは高齢者の方。まずは『はるかの御用聞き』にご相談下さい。（品薄の物は用意できない場合がございます）

3月某日　家電の処分

使わなくなったテレビ処分のご依頼でした。郵便局で家電リサイクル料金を支払ってもらった後に、桜区の処理施設へ運ぶお手伝い…１３００円也

3月某日　荷物の移動

この度、施設に入居されることとなったお母さまの荷物の移動。

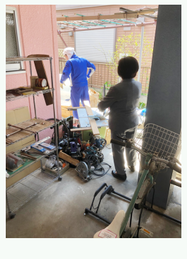
引っ越しというほどの荷物ではないけど、タクシーでは難しい。そんな時こそ御用聞きの出番です。

荷物を載せて、ご家族と一緒に施設への往復30分…３５００円也　（小杉）

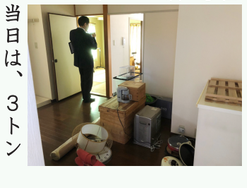
遺品整理士の初仕事

前号で「遺品整理士の資格を取りました」という報告をしたところ、記事を読んだメンバーズさんから有り難いことに早速ご依頼をいただき、先日お見積りに伺いました。

もちろん、私一人ではありません。提携している遺品整理業者と現地で待ち合わせ。私は「見習い」として傍で勉強させていただきました。お部屋を拝見すると、ご遺族がかなり頑張ったとお察しできるほど片付けが出来ている状態。しかし一見、片付いているお部屋に思えたものの、いざ見積りを開始すると、ベッドや机などの大きな家具や、家電リサイクル品、パソコンなどのデジタル遺品、故人の仕事や趣味に使っていたという電動工具が沢山ありました。



各部屋、物置き、外回りとそれぞれに見積もりを出して合計金額を提示、説明し、ご遺族に了解いただき、契約となりました。

回収後、価値ある品々については適正価格で買い取っていただき、整理費用から差し引きます。

作業日は3月末に決定。当日は、3トントラック2台、6人のスタッフで11時から一日作業となるようです。遺品整理費用は普通に住んでいる状態で、一部屋10万円前後と言われています。「この部屋だけ片付けたい」というご依頼もOK。お見積りは無料ですので、どうぞお気軽にご用命ください。（古屋）